




さあ、答え合わせをしよう!

第64週目 行ってみよう～鹿児島県(かごしまけん)からの出題

※ココを見てね!  行ってみよう～鹿児島県(かごしまけん)

1. 鹿児島県には、火山の爆発(ばくはつ)のできた台地(だいち)があります。それは、何ですか?

正解:③シラス台地(だいち)

「台地(だいち)」とは、ほかの平地よりも一段高くなっているところをさします。日本列島(れっとう)の台地をかんとんに説明(せつめい)すると、火山の噴火(ふんか)によって流れ出した溶岩(ようがん)が固まったものと、大規模(だいきぼ)に隆起(りゅうき)した地面が強固(きょうこ)な岩盤(がんばん)として固まったものの2種類あります。鹿児島県(かごしまけん)は、本土面積(ほんどめんせき)の約6割がシラスに覆(おお)われていますが、このシラスとは、約2万4千年前の火山の噴火(ふんか)による火砕流(かさいりゅう)、空中にまいあがった軽石(かるいし)や火山灰(かざんばい)などが堆積(たいせき)したものだとして推定(すいてい)されています。正解は、③シラス台地(だいち)でした。ちなみに、大阪市内の中心部に位置する上町台地(うえまちだいち)は、岩盤(がんばん)タイプ。バークリー台地(だいち)は、オーストラリアにある約8万4千km²におよぶ広大な平原のことで、

2. 大昔から、南西諸島(なんせいしよとう)の島々と交流があったことがわかっています。何を使っていたのかな?

正解:①丸木舟(まるきぶね)

鹿児島県(かごしまけん)は、南北600kmの広大な県域(けんいき)に28の島々を有(ゆう)しています。大昔から海に囲(かこ)まれた地形(ちけい)で、古代の人々は丸木舟(まるきぶね)を使って、いろんな島の人たちと交流(こうりゅう)していました。正解は①です。現代(げんだい)でも、県内でいちばん近い屋久島(やくしま)までは高速船(こうそくせん)で約8時間、飛行機でも2時間ほどかかります。海流の激(はげ)しさやその距離(きょり)を思えば、危険(きけん)な航海(こうかい)だったことでしょう。旗や糸電話では間に合いませんね(▽^;))

3. 国の重要文化財に指定されているお宝の中に、「レモンの形をした土器」があります。どこの遺跡でみつかった?

正解:②前原遺跡(まえはらいせき)

「お宝ベスト5」の3つ目、正解は②前原遺跡(まえはらいせき)。縄文時代早期(じょうもんじだいそうき)の土器には、縄目(なわめ)ではなく、貝殻(かいがら)で模様(もよう)がつけられていました。遺跡(いせき)からは、旧石器時代、縄文時代早期・晩期、古墳時代、平安時代のものがみつき、なかでも縄文時代早期のムラの発見(はっけん)は、南九州の古代の人々の暮らしぶりを知る重要(じゅうよう)な手掛(が)かりとなりました。

4. 小湊フワガネク遺跡は、鹿児島県のある島に位置します。さて、その島の名前は何か?

正解:②奄美大島(あまみおおしま)

鹿児島県(かごしまけん)のマップから、小湊フワガネク遺跡(こみなとふわがねくいせき)をクリックしてもらうと、わかったよね? 正解は、②奄美大島(あまみおおしま)です。

5. 上野原遺跡(うえのはらいせき)からは、52の住居跡がみつかりました。いったい何時代のムラですか?

正解:②縄文時代(じょうもんじだい)

これも、鹿児島県のマップから、上野原遺跡(うえのはらいせき)をクリックしてくれたらわかる問題だね。正解は、②縄文時代(じょうもんじだい)。南に鹿児島湾や桜島(さくらじま)、北に霧島連山(きりしまれんざん)を望(のぞ)む標高約250mの台地上にある遺跡(いせき)では、縄文時代の早い段階(だんかい)から多彩(たさい)な文化が開花(かいか)しました。ここでの遺構(いこう)は、弥生時代や古墳時代までみつかり、